

入曽地区中学校統廃合検討協議会学区部会の検討結果

入曽地区の中学校の統廃合については、平成23年10月に開催された入曽地区中学校統廃合検討協議会第5回会議において、入間中学校を統廃合の対象校とすることで合意がなされたことを受け、平成24年度より新たに学区部会を設け、統廃合に伴う学区の見直しに向けた検討協議を進めてきました。

【学区部会の開催経過】	
H24. 6. 20	第1回会議
H24. 7. 25	第2回会議
H24. 9. 25	第3回会議
H24. 11. 21	第4回会議
H25. 2. 5	第5回会議

学区部会では、統廃合に伴う学区の見直し案として四つの案を提示し、それらの案を基に検討を進めました。部会では、学区を決める際の判断材料として、通学の距離や時間、安全を重要な要素と位置付け、想定される通学路を委員自ら実際に歩き、現状を把握したうえで意見を出し合うこととなりました。結果としては、山王中学校に比べ、入間野中学校に向かう通学路の方が、全般的に距離が近く、安全面も確保されているとの見方が大勢を占めたため、その後の協議は、入間野中学校への統合をベースとする③案と④案に絞られる形で議論が進められました。

③案と④案の論点整理

	効 果	課 題
③案	<ul style="list-style-type: none"> ○ 南小学校の子ども達が分散せずに同じ中学校（入間野中学校）に進学できるため、小・中学校の連携・接続が維持できる。 ○ 入間小学校の統廃合の際に別れた友達と、再び同じ学校（入間野中学校）で学ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 入間野中学校のキャパシティの関係から、余裕教室の活用に制限が生じる。
④案	<ul style="list-style-type: none"> ○ 山王中学校も適正規模の確保が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第九区自治会に住む子ども達が別々の中学校に通うことになるため、地域における子どもや保護者同士のつながりが薄れ、地域と学校の関係も希薄化することが懸念される。

最終的には、学区部会第5回会議において、委員の投票によって部会における学区の方向性が示されることとなりました。そして、入間中学校区内を通る線路を境に、西側の区域を入間野中学校に、東側の区域を山王中学校に分散統合し、併せて入間野中学校区のうち御狩場小通学区を山王中学校に編入する④案が、最も支持を集める結果となりました。

投票結果（投票者数 17 名・欠席者数 3 名）

見直し案	③案	④案	その他	合計
投票数	7	8	2	17

※「その他」の2票は、入間中学校区全域を自由選択制にする案

なお、④案に関しては、山王中学校が指定校となる線路東側の区域について、入間野中学校への通学も可能とする特別許可地区（地域指定校外就学基準）を設けるとする意見も出されています。